

- ・ 全国アホ・バカ分布図
- ・ 言葉の圏分布図

ワイガヤ会（2023/3/9）藤尾征成

あなたは目上の人に

- ・ 「アホか お前は！」又は「バカか 君は！」

と言われた場合、どちらがより堪えますか？

多分出身地により違うと思いますが、皆さんはどちらでしょう？

- ・ アホ・バカを意味する言葉の視聴者からの情報

- | | | | |
|----------|---------|-----|------------|
| ・ 北海道・青森 | ハンカクサイ | 岡山 | アンゴウ |
| ・ 宮城・福島 | バカ | 島根 | ダラズ・ダース |
| ・ 茨城 | ゴジャッペ | 佐賀 | バカ・フーケ（モン） |
| ・ 石川 | ダラ | 鹿児島 | バカ |
| ・ 福井 | アヤ・ヌクテー | 沖縄 | フラフージ |
| ・ 兵庫 | アハー | | |
| ・ 徳島 | ホレ | | |

図書紹介

全国アホ・バカ分布考 新潮社刊
著者 松本修

言葉の圏分布考 集英社インターナショナル
著者 松本修

著者紹介

TVプロデューサー 1949年滋賀県生れ
京大法卒

1947年朝日放送入社 「ラブアタック」
など数々のヒット番組を企画、演出、制作。
「探偵！ナイトスクープ」を発案、立ち上げ。

大阪芸大教授、甲南、関西、京都精華大学
講師を歴任。



アホ・バカ調査の発端

1990年1月の「探偵・ナイトスクープ」のスタジオ収録時。
視聴者からの依頼⇒「私は大阪生まれ、妻は東京育ち。2人で言争う時、私は「アホ」と言い、妻は「バカ」と言います。慣れない言葉でお互い大変に傷つきます。ふと、東京と大阪の間に「アホ」と「バカ」の境界線があるのではないかと気づきました。東京からどこまでが「バカ」でどこからが「アホ」なのか調べて下さい。

取材班は東京駅から1泊2日の日程で東海道を西下し、「アホ」と「バカ」の境界線を探ろうとした。

- ・東京駅で80歳位のおばあちゃんに「今いくつだと思う？」と言われ、「えーと22」「バカ！」不意に飛び出した「バカ」に一言に大喜び。
- ・新幹線で静岡県の富士駅に下車、ここでも「バカ」だった。
- ・名古屋駅前では中日ファンのサラリーマンが、「タワケな巨人・・・」突然「タワケ」が出現。
名古屋は独自に「タワケ文化圏」を主張していた。

- ・次は岐阜市 ここでも同様に「タワケ」が使われていることを確認
「アホ」と「バカ」でなく、「アホ」と「タワケ」の境界線も見つける必要あり。
- ・滋賀県の米原町は「アホ」、岐阜県に引き返して大垣市は「タワケ」
右往左往して境界線はどうやら滋賀と岐阜の県境、関ヶ原あたりと推定。
- ・結果的にはこの結論がほぼ正しかったが、「アホ」と「バカ」の境界は
はっきりしない。
- ・スタッフ間のやり取りで、「西日本はずっと「アホ」？「そんなこと
ない」「九州ではどうゆう？」「バカって言う気がする」全員が驚いた。

上岡竜太郎が「アホ」とか「バカ」などの言葉は、きっとまだ学者も調べていない。

この言葉から、全国アホ・バカ方言分布調査が始まった。

全国市町村統一アンケート

「アホ」「バカ」「タワケ」だけでなく、各地に多種多様な表現があり、結局右の様式で全国の市町村教育委員会にアンケートを発送することになった。(総数3,240)

質問—ご当地では、大坂で言う「アホ」、東京で言う「バカ」にあたる言葉は何ですか？マスコミで新しく流入した言葉ではなく、ご先祖様の時代から、脈々と使用され続けてきた表現をお教えてください。

スタッフの1人から先行研究の有無についての報告があり、文化庁管轄の国立国語研究所の方言専門の先生から、「アホ・バカの方言分布についての調査研究は今までに皆無である。非常に興味深い研究だ。」

◎ご当地地域名 (都道府県・市郡・町村に「○印」をしてください。また市郡町村名に「ふりがな」をつけてください)

	都道府県		市郡		町村
ご回答	反意語	(アクセント表記欄) 該当表現 アホ／バカ・なし			
解説欄					

質問2 (使用例)

ご当地ではどんな表現が会話の中で使われているか、東京・大阪の例にしたがって、最も一般的な例を、右の「ご当地使用例」欄にご記入ください。

東京主地域	大阪主地域	ご当地使用例
「バカ！」(決め字、罵詈)	「アホ！」(決め字、罵詈)	→
「お前は、バカだ！」	「お前は、アホか！」	→
「バカだねー」(馴み込め)	「アホやなあ」(馴み込め)	→
「バカ野郎！」(強調)	「ドアホ！」(強調)	→
「バカバカしい」	「アホらしい」	→
「人をバカにするな」	「(該当方訛し)なめるな等て代用」	→
「兄はバカだけど、弟はおりコウさんね」	「兄はアホやけど、弟はカシコイね」	→

…以上です。ご協力、ありがとうございました。
アンケートご回答者連絡先・部署・ご氏名
(〒 -)

全国市町村アンケート調査

「人をバカにするな」は正当な関西弁ではどう言えはいいのだろうか？

関西には東京の「人をバカにするな」に対応する表現はない。

なぜ「人をアホにするな」という表現が上方で定着しなかったのか？

賢明を意味する表現は、関西では「カシコイ（賢い）、関東では「リコウ（利口）」ではなかったか？ 東京出身の会社の後輩に確認した。

「関西ではカシコイ子やね、と子供を褒めるけど、東京ではなんと褒めるの？」後輩曰く「お利口さんね、ですね。」関西では勉強の出来る子はカシコイと言うけど、この場合も東京ではリコウでええの？ ⇒ 「リコウと言いますね。勉強ができてカシコイなんて言いません。」

「兄はバカだけど、弟はおリコウさんね。」これを各地の方言でなんというか。この質問もアンケートに盛り込まれた。

(アンケート用紙2枚組みの1枚目) 「方言は 郷土の誇り 母の愛」

全国市町村アンケート調査 (希望回答期限: 2月末日)

(市郡・町村に○印をつけてください。)

<input type="text"/>	都道 府県	支庁	市郡	町村
----------------------	----------	----	----	----

旧国名(畿・東・越・北・西)	江戸時代の支配(幕・藩)	(わかりにくい場合は、空白で結構です。)
----------------	--------------	----------------------

次の文章を丸ごと、ご当地の方言に翻訳してください。

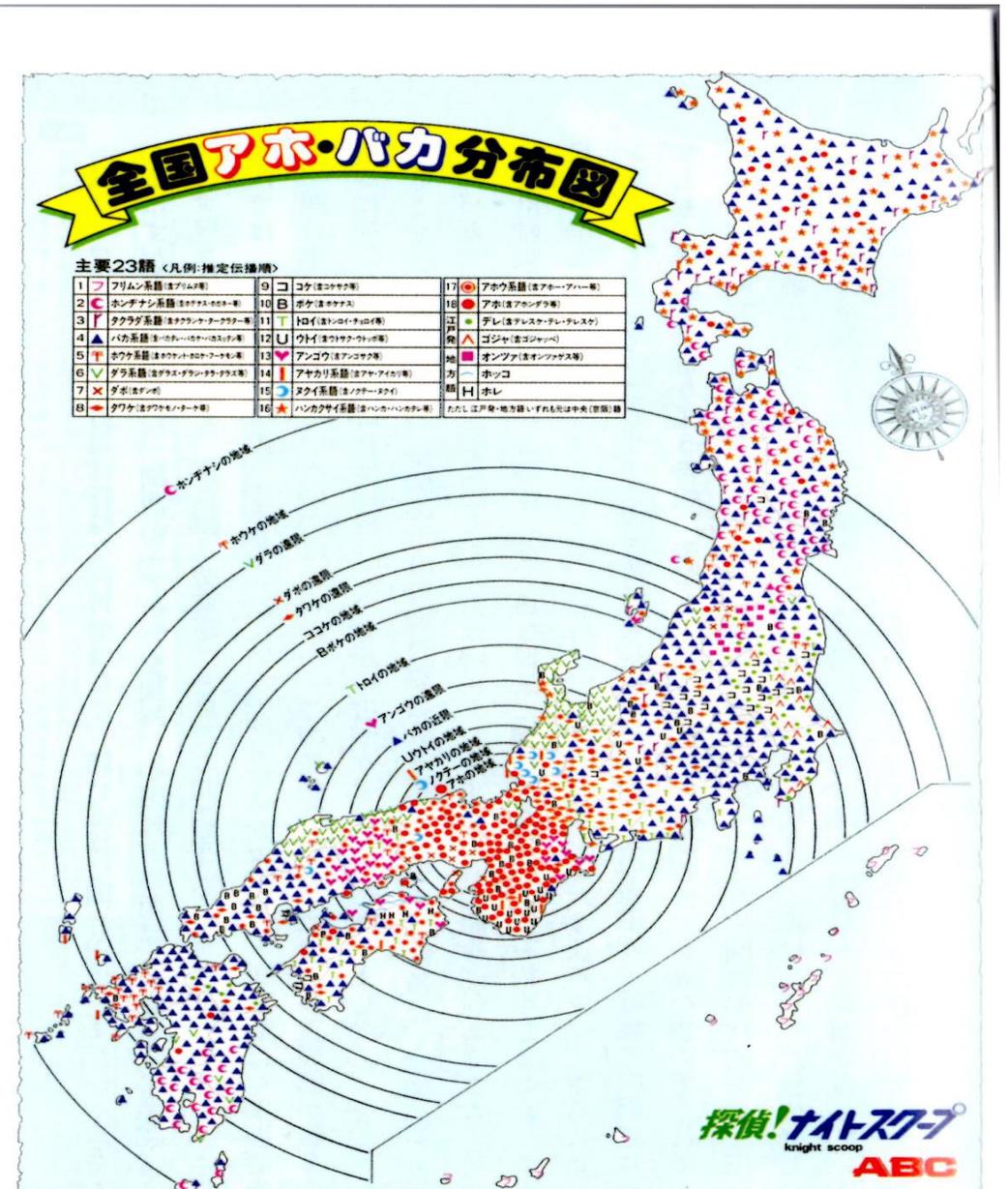
漢字ではなく、「カタカナ」(または「ひらがな」)、あるいはそれが不可能な場合「発音記号」でご記入下さい。複数の表現がある場合は、すべてお書きください。標準語どおりの場合は「標準語」で、適切な表現が思い出せない場合は、空白でも結構です。カッコの言葉は各地の方言例です。ニュアンスの説明・類似語など何なりと「解説事項」がございましたら、下欄にご記入ください(紙面不足の場合は、別紙を設けてご記入くだされば幸甚です)。

ああ、疲れた！(アハハ・エラッ・コワイキツイ)	きのう(キノウ)は、	すごく(ドクダ)	疲労したよ(キツクシマ・タツシ)
うごく(ウゴク)のも、めんどろだ(メンドロ)	ジャンケン(ジャンケン)しようよ。ジャンケンポン！	グー・チョキ・パー	
かわいい(カワイイ・カワシ)	娘(メシ・メコ)を	からかう(カウ)のは	かわいそう(カワイモウ)じゃないか。
おとうさんが言った(オウサンガイハッタ)ところ(トコロ)へ、	どうして(ドウシテ)	行けないのだ(イケン)	
私たちの(ワタラシ)先輩(センパイ)は、	いつも、言われた(イハレタ)ものだ。	ご飯を、食べながら(クワイシマ)	
しゃべっては(シバ)いけない(イケン)。(トコ)	うるさい(ウラサイ)	静かにしなさい！	

方言ご解説欄 (ニュアンス・使用法の違い・類似語など、何であれ解説の要があれば、お書きください)

全国アホ・バカ分布図

- ①ほぼ新潟・長野・静岡以東、すなわち日本アルプスより東側の日本は、基本的に「バカ」が支配している。ただ一部で「ハンカクサイ」「タ克蘭ケ」（北海道・東北の北部）、「ホデナス」（宮城）、「ゴジャッペ」（茨城）、「コケ」「デレスケ」（ともに栃木）などが「バカ」と共存している。
- ②中部地方では「タワケ」（ターケェ）が栄えている。ただし「アハウ」も「バカ」も使う。
- ③近畿中心部では「アホ」。周辺では「アハウ」、更に「アハア」（但馬地方）の地域もある。
- ④中国・四国では「アハウ」が使われる一方で、「ホッコ」（香川）、「ホレ」（徳島）、「アンゴウ」などが頑張っている。
- ⑤広島・愛媛以西では再び「バカ」が濃厚となり、九州全域をも支配している。しかしここにも地域語があって、佐賀の「フーケ（モン）」がその代表である。
- ⑥沖縄の「フラフージ」は誤りで、首里では「フラワー」が正しく、また「ゲレン」もある。奄美大島には「フリムン」「ノウリキヤー」がある。



1991年10月、日本方言研究会53回大会の「全国アホ・バカ方言の研究」の発表に際して、配布された分布図

グジャッペとゴジャッペ

関東の「ゴジャッペ」は熊本民謡「おてもやん」に出てくる「グジャッペ」と似ていますが、これは別物。「グジャッペ」はあばた面のこと。

おてもやんの歌詞

おてもやん あんたこの頃嫁入り
したではないかいな 嫁入りしたこ
とあしたばってん

御亭（おてい）どんが菊石面（ぐ
じゃっぺ）だるけん まアだ盃アせ
んだった 村役とび役肝入りどん
あん人達のおらすけんで あとはど
うなとキャアなろたい・・・続く

ゴジャッペ（茨城、栃木）の方言
「いい加減」「でたらめ」の意味
「ゴジャ」+「ペ=人」から「いい
加減（でたらめ）な人」

スポンサー

freemake.com

非商業的使用のために設計された

Freemakeのブランドを削除するには、Mega Packを使用してください

方言圏論

- 日本の方言地図 中央公論新書（徳川宗賢編）

- 1) 日本アルプスや鈴鹿山脈を境に、その東西に言葉が対立する場合がある。自然の障壁が東西に分断している。

- 2) 圏分布論

例えば、東京にA、九州にもAと言う同じ表現があって、近畿のBという表現を挟み込んでいるならば、Aは古い時代の京の都の言葉であったと推測することができる。

昔、京の都で一つの魅力的な表現が流行すると、やがてそれは地方に向けてじわじわと広がっていった。つまり

「言葉は旅をした」 池に石を投げ込んだ波紋のように！

柳田国男の蝸牛（カタツムリ）考

「古語は辺境に残る」

より古い時代に都で使われた言葉ほど遠い地方に残り、順々に新しい言葉ほど都に近いところに残っている。東北と九州にはとりわけ古い言葉が残され、更に琉球列島にはまだ日本が統一される前の、古い言葉（日本祖語）が貯えられている。

「日本」という国号が公的に定まったのは、飛鳥浄御原令の施行（689）以来と言われます。それまでは「ヤマト」と名乗っていました。これは千数百年の時を経て、現代でも琉球の人々が本土の人を「ヤマトウンチュ」と呼ぶのに反映されています。

「若し日本が此様な細長い島でなかったら、方言は大凡近畿を**ぶんまわし（コンパス）**の中心として、段々に幾つかの**圏を描いたこと**であろう。」（柳田国男）

「すべて田舎にはいにしえの言葉残れること多し。ことに、遠き国人のいふ言の中には面白きことどもぞ、残れる」（本居宣長 1730～1801）

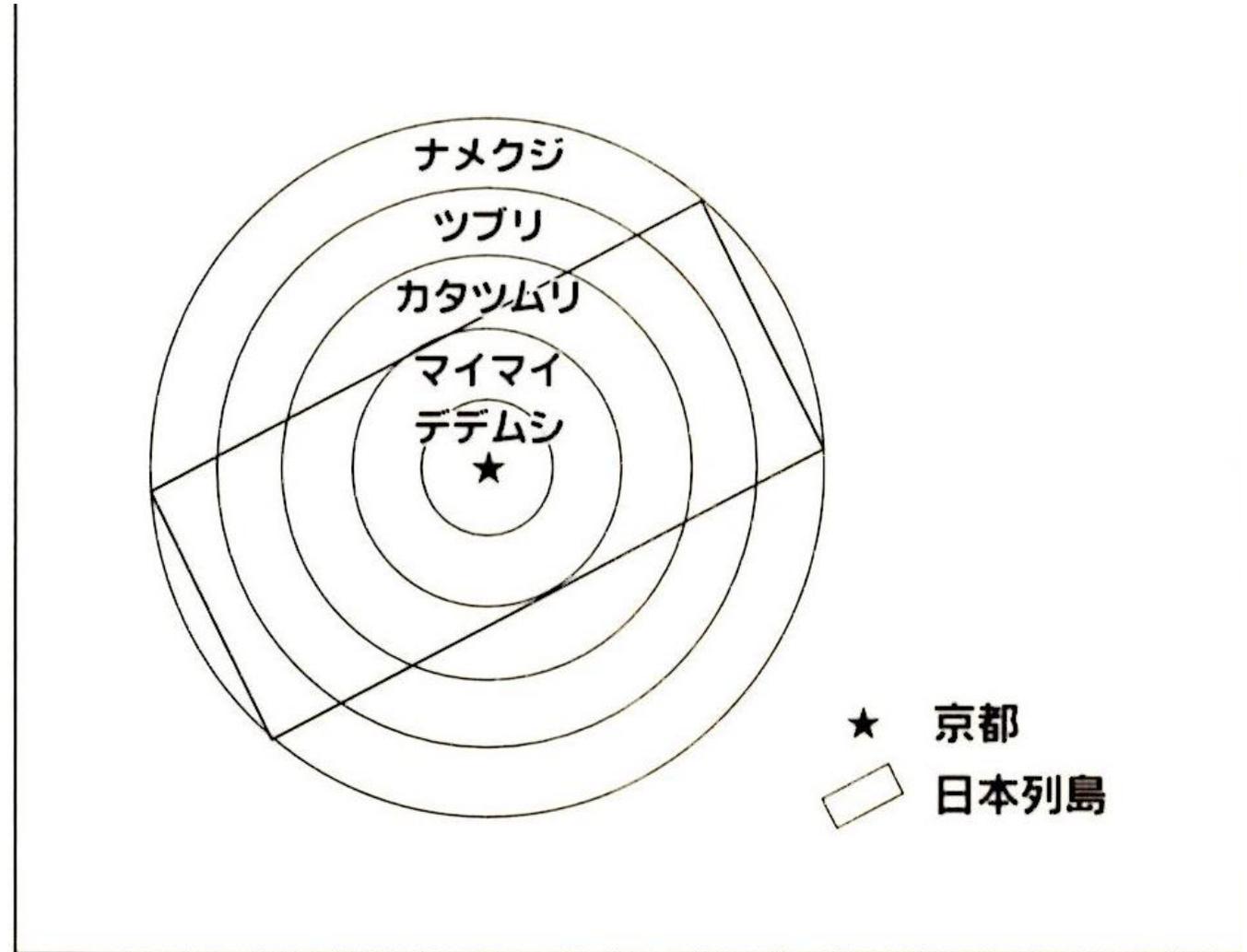
蝸牛考

カタツムリは近畿地方を中心に「デデムシ」（デンデンムシ）と呼ばれ、その東西の地域、東海地方や福岡県では「マイマイ」と呼ばれる。

さらにその東西では「カタツムリ」や「ツブリ」と呼ばれ、最後に都から遠く離れた東北と九州の一部では「ナメクジ」と呼ばれていた。

これを柳田国男が解釈して、

「デンデンムシ」が一番新しく、「ナメクジ」が一番古い都の言葉とした。



柳田國男による方言圏論の模式図

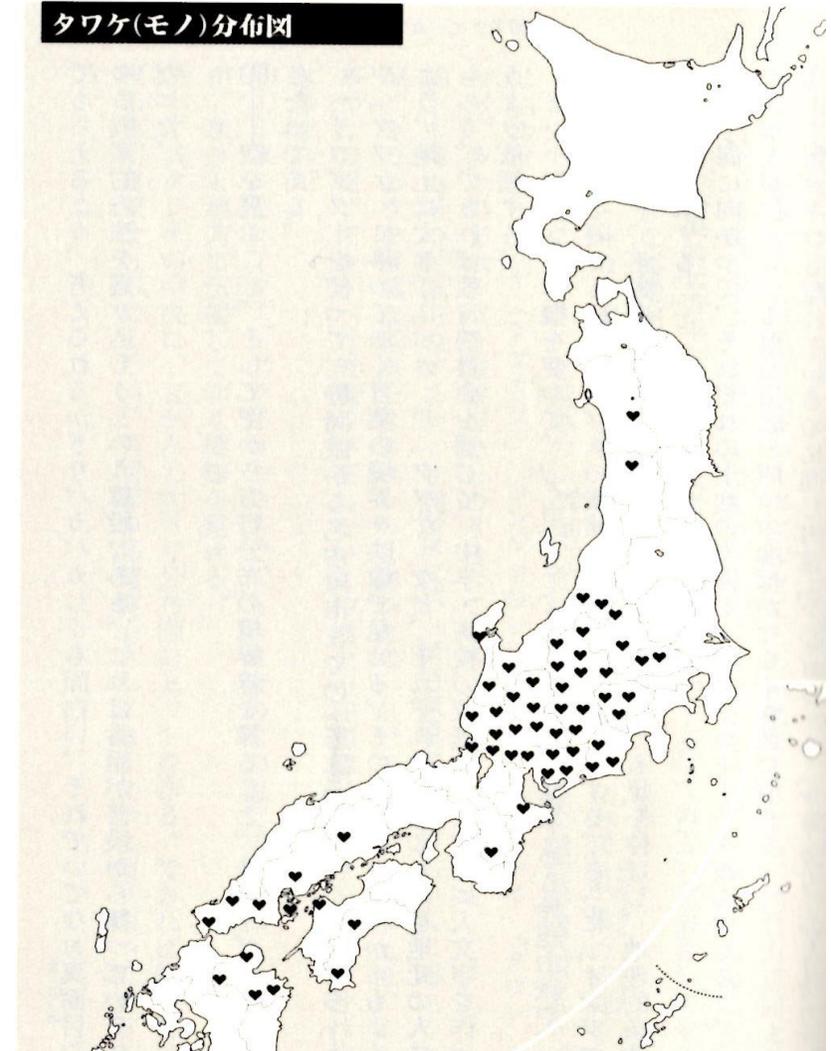
アホとダボ

神戸生まれ、播州育ちの小生は、他人をののしるとき、友達同士のケンカの時は、アホではなくダボを使っていた。

アホとの境界線は、姫路を出発して明石、神戸を経由して、どこでダボが消えるか？この調査は尼崎市と大阪市を分かつ左門渡川が境界線として確定した。

ダボの語源は「アホ」にドがついた「ドアホ」が訛って、「ダボ」になったと思われたが誤りだった。のちに言語地理学という学問を踏まえて改めて考えると、どう見ても「ダボ」の方が古い日本語であり、「アホ」や強調の「ド」が広まる前から使われていたようである。

ダボ（ダンボ）兵庫、愛媛のほか、長野や山梨、新潟、福島の間山部や遠隔地に残されている。アホなどよりはるかに古い言葉なのだろう。

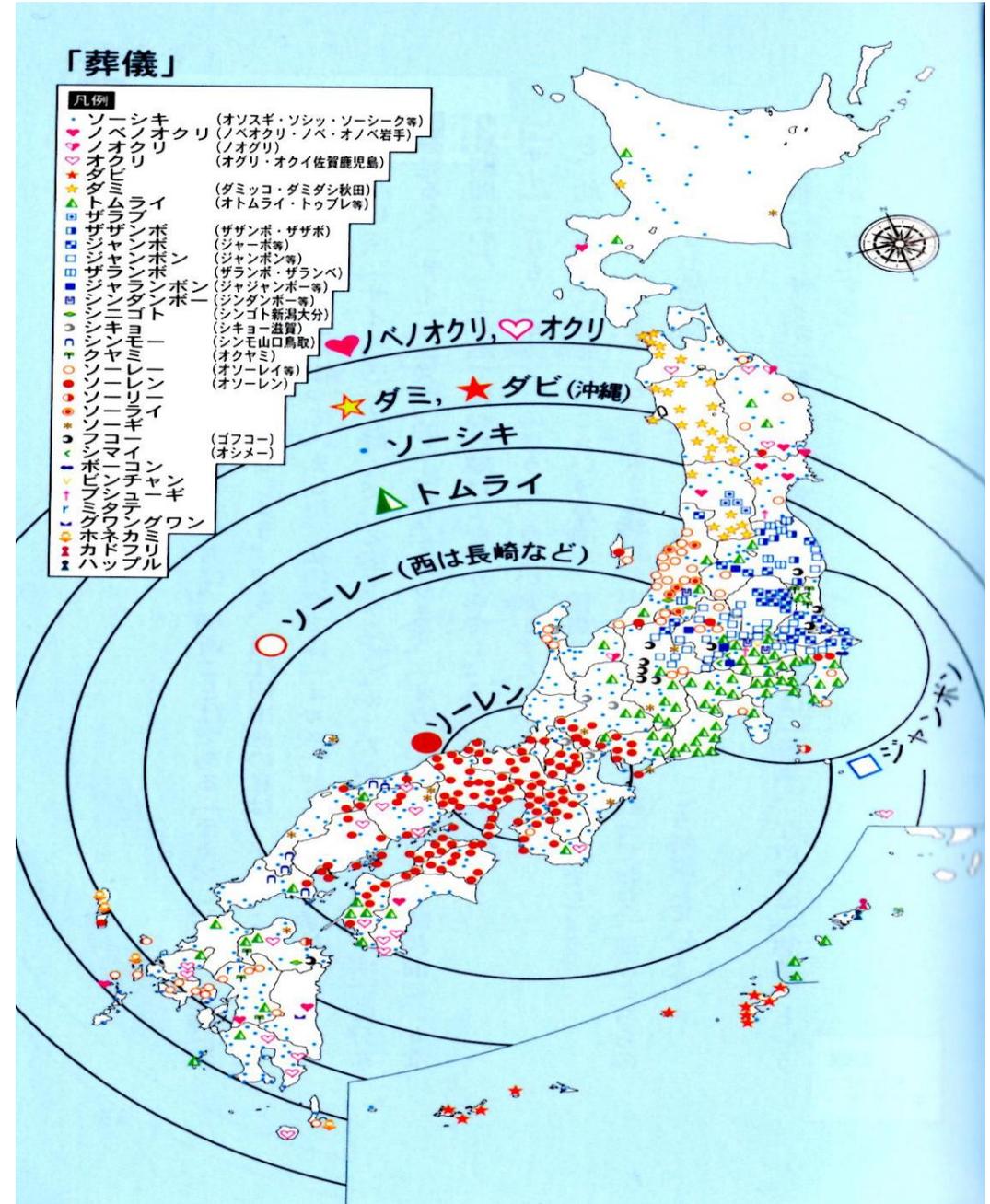


葬儀分布図

分布図を見て、江戸が発信源かと思える希少な例は「ジャンボン」です。私は「ソーレン」の世界で育ちました。東京では「お弔い」です。「トムライ」は文献にもあり、紛れもなく都ことばです。西国でも、四国西部や九州北部に集中します。「ソーシキ」は徳川後期の文献に現れる言葉ですが、分布の広さから見てこれも古い都ことばかと思われます。

伝播順は、「(ノベノ) オクリ (野辺の送)」⇒「ダビ (茶毘)」⇒「ソーシキ」⇒「トムライ」⇒「ソーレー (葬礼)」が訛って「ソーレン」と解釈できる。

「ジャンボン」は葬儀でお坊さんがシンバルのような金属の仏具を「ジャンボン」と打ち鳴らして、葬列を進んだことに由来すると言われている。



沢庵の分布図

浅漬け、古漬けかの違いによっても呼び方は異なるのかもしれないが、「沢庵」の方言訳を求めたら、このような分布図となった。

これもまた「コーコー」などの御所ことばを含む、多重周圏分布となった。

沢庵の名称は一番新しく、「本朝食鑑（1695年）」には「香物（略）有百本漬者、（略）或称沢庵漬」とあり、沢庵漬は沢庵和尚（1573～1646）の在住した京の大徳寺から広まったことによる。

